



正岡 千博 議員

更なるごみの減量について

問

一・プラスチック及び生ごみ等の分別に向けて、その後の経過と今後の見通しを伺う。
二・市民がごみステーションに出した資源ごみを市の指定した収集業者以外の方が集めている状況をどう捉えているか。

答

中村市長

一・当市では昨年十月から可燃ごみ有料化を実施して、平成十八年十月から十九年三月までの伊予地区清掃センターへの収集ごみの搬入量は有料化実施前の同期間の搬入量に比べて約一四％の減量化が図られた。

また、本年四月からは布類の分別収集に取り組み、四月、五月の搬入量は昨年比べて一八％、二二％と減量している。さらに、容器包装プラスチックの分別は平成二十年度から実施に向けて中間処理施設の確保、全体的な収集体制の見直し等について検討している。また、生ごみについては悪臭が出やすく分別が難しいこと、収集した生ごみの利用先がないこと等から、全国的にも分別収集が進んでいないのが現状である。

当市も実施に向けて具体的な計画ができていないので、当面は市民の皆さまに生ごみ処理機等の購入補助制度を活用していただき、生ごみの減量化を図っていききたい。

二・ごみステーションの資源ごみ抜き取り行為については、ここ数年古紙等の価格が高値で推移していることから、全国的に資源ごみの持ち去りが問題化している。本市においても、市民から目撃情報や苦情が寄せられている。

ごみステーションへ出された資源ごみを無断で持ち去ることは、市にその処理を託した市民感情に反し、リサイクル意識を阻害する許しがたい

行為と考えており、今後、これらの抜き取り行為の有効な防止策を研究していきたい。

県河川の維持管理（清掃）について

問

一・伊予市には県の一級河川及び二級河川が幾らあるか。
二・県は維持管理費を伊予市で年間いくら使っているか。
三・愛リバー・サポーター制度について伺いたい。

答

中村市長

一・市内に流れている県河川は、一級河川が中山地区に二十一カ所、二級河川が伊予地区に二十一カ所、双海地区に二十一カ所の合計六十三カ所である。

二・河川の流水に支障を来している箇所機能維持、例えば護岸石積みの崩壊箇所の補修や通水断面を阻害している障害物の除去等について、愛媛県が維持管理を行っている。

三・愛リバー・サポーター制度は、地域住民の清掃ボランティア活動について県が清掃資材を提供し、市が集積されたごみ等の処分を行なうもので、地域と行政が協力して河川環境の美化に努め、河川愛護意識の高揚を図る制度である。

本市では中山川で中山中学校、上灘川で翠小学校と愛リバーゆうぎりの三団体がこの制度の元で活動を行っている。この制度の活用できる河川は作業に危険を伴うことが予想されるので、河床や護岸、堤防敷の改修が完了しているところに限られるのではないかとと思われる。県の財政状況も厳しく、維持管理に対する予算も限られているので、この制度を地域住民の皆さまに広報紙等でお知らせし、積極的な参加を呼びかけたい。

答

道路河川課長

二・維持管理費は松山地方局河川砂防課が、年間維持管理費として松山地方局管内の全体の管理費用として予算計上し、伊予市の河川の清掃や改修等もやっていた。この費用は、全体予算であるので、伊予市にいくらの予算配分をするというものではない。

い。緊急時に使用するもので、十八年度の実績は県管理の一、二級の砂防河川と一般河川で清掃や改修に約百万円を使用したと聞いている。



梢川（上吾川）

その他の質問事項

・都市計画道路築港白水線について